

社会的事象の見方・考え方を働かせた深い学びを促す学習指導

著者	上江洲 洋志, 藤崎 智大, 森山 慎一
雑誌名	鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要
巻	28
ページ	227-232
発行年	2019-03-29
URL	http://hdl.handle.net/10232/00030582

社会的事象の見方・考え方を働かせた深い学びを促す学習指導

上 江 洲 洋 志 [鹿児島大学教育学部附属小学校]

藤 崎 智 大 [鹿児島大学教育学部附属小学校]

森 山 慎 一 [鹿児島大学教育学部附属小学校]

Learning instructions that encourage deep learning by the active use of social phenomena-based viewpoints and methods of thinking

KAMIESHU Hiroshi, FUJISAKI Tomohiro and MORIYAMA Shinichi

キーワード：見方・考え方、社会的事象、深い学び、学習指導

1. 目指す学びの方向性

1.1. 事象の見方・考え方を働かせた深い学び

今回の学習指導要領改訂では、各教科等において、育成すべき資質・能力を育むために、問題解決的な学習の過程を充実させることが求められている。

なぜなら、資質・能力は、知識や技能を活用したり、思考力・判断力を発揮したりしながら、問いを解決する一連の問題解決的な学習の過程において、育成されるからである。

小学校社会科における問題解決的な学習とは、社会的事象に関する問いの解決に向けて、諸資料や調査活動などで調べ、社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりすることを通して、社会生活について理解する学習である。

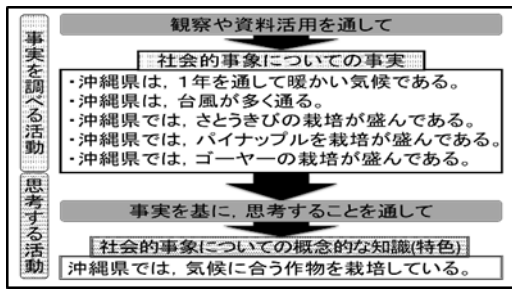
1.2. 社会生活についての理解

社会生活について理解するとは、社会的事象に関する知識を獲得していくことであり、以下の2つの知識を捉えていくことである（表1）。

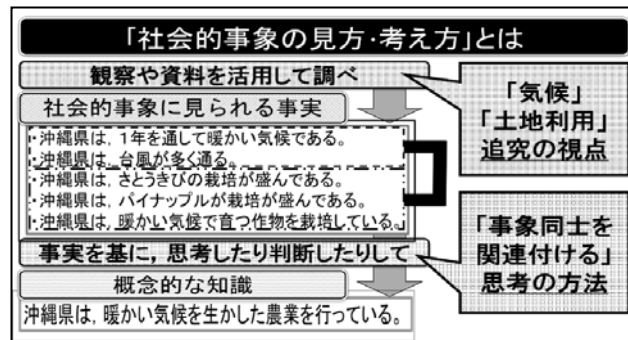
事実とは、主として用語・語句などを含めた事象に見られる具体的な知識である。概念的な知識とは、事象の特色や意味などを表し、時間や場所が変わってもあてはめることができる汎用的な知識であり、事実を基に考えることによって得られる知識である。

【表1 社会科における知識の種類】

知識の種類	具体例
事実	<ul style="list-style-type: none">沖縄県は、1年を通して暖かい気候であり、台風が多く通る。沖縄県では、さとうきびパイナップル、ゴーヤーの栽培が盛んである。
概念的な知識	沖縄県では、気候に合う作物を栽培している。



【図1 概念的知識の獲得の流れ】



【図2 社会的事象の見方・考え方を働かせる学習の例】

小学校社会科における問題解決的な学習においては、図1のように、社会的事象について調べて事実を獲得し、それらを基に、社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりすることを通して、概念的知識を捉えていくようにすることが大切である。その際、「社会的事象の見方・考え方」を働かせることが必要である。「社会的事象の見方・考え方」とは、「社会的事象の特色や意味などを考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする際の『視点や方法』である。」と小学校学習指導要領解説社会科編、第1章創設、2社会科改訂の趣旨及び要点に示されている。また、その具体的内容については、「位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して、社会的事象を捉え（視点）、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること（方法）」と示されている。

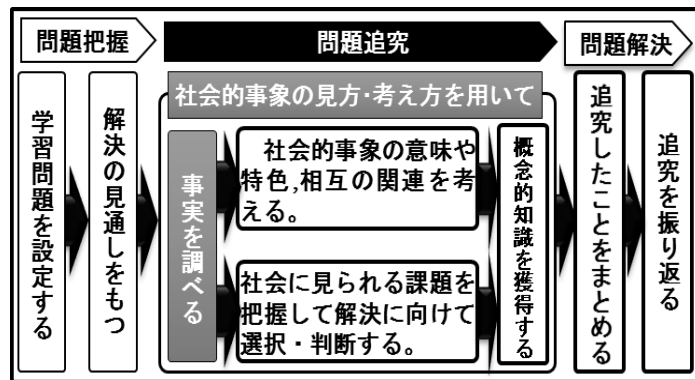
第5学年の、暖かい地方である沖縄県のくらしの特色を追究していく学習を例に「社会的事象の見方・考え方」を働かせている様相を示すと、図2のようになる。

まず、位置や空間的な広がり視点である、「気候」と「土地利用」に着目して沖縄県について調べることで、「一年を通して暖かい気候である（気候）」ことや、「暖かい地方で育つさとうきびやパイナップルの栽培が盛んである（土地利用）」といった、事実を獲得していく。次に、それらの事実を「関連付ける」という思考の方法を用いて思考・判断することによって、「沖縄県では、暖かい気候を生かしたくらしを行っている。」という特色に関する概念的知識を獲得していく。

このように、「社会的事象の見方・考え方」を働かせながら学習の問題の追究・解決を図っていくことは、社会に無数に存在する事実から、必要な事実を捉え、思考することによって意味をもった知識のまとめである概念的知識を獲得していくことにつながる。また、その過程において、社会科で目指す資質・能力を育成することにもつながる。

これらのことを踏まえ、本校社会部では、「社会科における見方・考え方を働かせた深い学び」を「位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して、社会的事象を捉え（視点）、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりしながら、社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりして、社会生活への理解を深める学び」として定義し、実践していくことにした。

このような学びを促すために、実践に当たっては、問題解決的な学習の過程に、事象について調



【図3 社会科における見方・考え方を働かせた深い学びの学習過程のイメージ】

べ、事実を獲得する活動や、それらを基に、社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりする活動を組み込んでいくことが必要であると考え、図3のような学習過程を構想した。

この学びの過程では、子どもが思考・判断することに向かう問いを、単元や1単位時間の学習問題及び授業での発問として具体化し、学習過程に位置付けることが必要であると考え。なぜなら、問いは、調べたり考えたりする内容を示唆し学習を方向付けるものとなるからである。

また、追究の過程において「社会的事象の見方・考え方」を能動的に働かせることができるようにするために、問いの解決に向けた追究の視点や思考の方法を吟味したり、その価値を捉えさせたりする場を、追究の各過程に意図的に位置付けていくことが大切であると考えた。そこで、深い学びを促す学習指導のポイントを以下のように設定した。

- 1 社会的事象の思考や判断に導く問いの設定
- 2 追究の視点や方法を設定したり、振り返ったりする場の設定

2. 社会科の見方・考え方を働かせた深い学び

2.1. 社会的事象について思考・判断することに向かう「問い」の設定の在り方

2.1.1. 社会的事象について思考・判断することに向かう「問い」の基本的な考え方

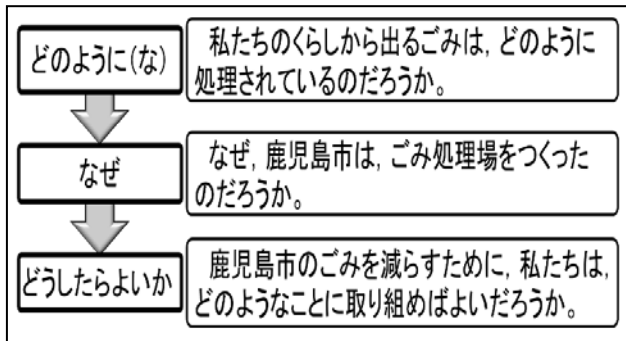
「問い」とは、それを解決する過程において社会的事象の特色や相互の関連、意味についての思考を促したり、社会に見られる課題の解決に向けての選択・判断を促したりすると云った、追究の方向付けができるものである。また、問いを解決することによって、社会的事象に関する概念的な知識を獲得することができるものでもある。

問いの基本型を、その解決に向けた活動と主に発揮される資質・能力の点から整理すると、以下の3つに分類できると考える（表2）。

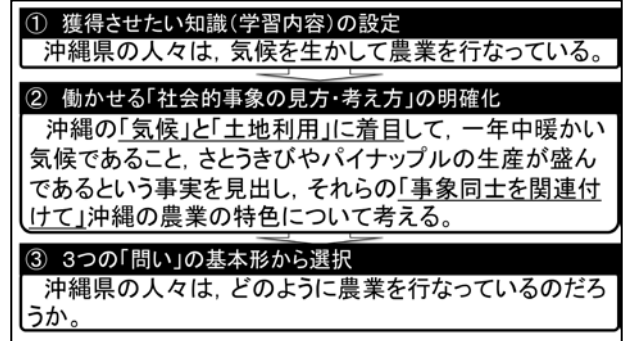
これらの問いを、獲得させる事実や概念的知識を考慮して、図4に示した、第4学年小単元「私たちのくらしとごみ」における問いの例のように、小単元の追究の過程に学習問題として設定していく。その際、社会的事象の理解の深まりの段階を踏まえると、「どのように(な)」「なぜ」「どうしたらよいか」という順で追究していくことが望ましい。また、社会的事象の理解を深めるという点から、社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えることに向かう「どのように(な)」「なぜ」の2つの問いは、どちらも学習過程の中で位置付けるべきだと考える。さらに、社会に見られる課題

【表2 社会的事象について思考・判断することに向かう問いの基本型とその解決に向けた活動及び発揮される資質・能力の関係】

問いの基本型	問いの解決に向けた活動	主に発揮される資質・能力	理解の深まり
どのように(な)	事象に見られる事実を調べる活動	観察・資料活用の技能	事実の獲得
	事象の傾向, 特色を思考する活動	思考力, 表現力	概念的な知識の獲得
なぜ	事象間の因果関係(社会的事象の背景や意図)を思考する活動	思考力, 表現力	
どうしたらよいか	社会に見られる課題の解決に向けた選択や判断をする活動	判断力, 表現力	



【図4 3つ「問い」の型を用いた例】



【図5 学習問題設定の手順例】

の解決に向けての選択・判断に向かう「どうしたらよいか」という問いは、学習内容及び子どもの発達段階を考慮して位置付ける。なお、以下表3は、本校においてこれまで実践してきた、社会に見られる課題の解決に向けての選択・判断する活動を小単元に位置付けた際の問いの例である。

2.1.2. 単元及び一単位時間の学習問題の設定

社会的事象について思考・判断することに向かう問いを単元や毎時間の学習問題として具体化するために、図5のような手順をとる。なお、設定した知識を獲得するために子どもが働かせる「社会的な見方・考え方」を明確にする際には、社会的事象の追究の視点と思考の方法の面から、文部科学省が示したものを基に、追究の視点と思考の方法を本校なりに整理した表4を基に考えていく。

そして、明確にした「見方・考え方」を働かせ、獲得させたい知識を獲得できる問いになるよう、基本形の3つのうち、どれが望ましいかを選択し、文言を具体化していくとよい。実際に子どもが学習問題を設定する際には、教師が授業段階で設定した問いが、子ども自身の問いになるような働きかけを行うようにする。

2.1.3. 一単位時間における発問の設定

一単位時間の授業においては、設定した学習問題の解決に向けて、思考の方法を用いて、社会的

【表3 社会に見られる課題の解決に向けての選択・判断に向かう問いの例】

3年生	安全なまちにするために、わたしたちには、どのようなことができるのだろうか。
4年生	鹿児島市のごみ減量のために、今後、だれが、どのようなことに取り組んでいけばよいのだろうか。
5年生	自動運転システムの開発を、今後、どのレベルまで進めていけばよいのだろうか。
6年生	鹿児島市の子育て支援政策を充実させるためには、補助金の充実と休暇制度の充実のどちらに力を入れていくべきなのだろうか。

【発問例】

- Aを選択すると、わたしたちのくらは、どのようになっていくのだろうか。
- なぜ、Aを選択すること(しないこと)が望ましいと言えるのか。 など

2.2. 追究の視点や思考の方法を設定したり、振り返ったりする場の設定

子どもが、社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えたり、社会に見られる課題解決に向けて選択・判断したりする際に、社会的な見方・考え方を能動的に働かせることができるようにするためには、本時の問いの解決のために用いる「追究の視点」や「思考の方法」について、追究の見通しをもつ活動において吟味したり、追究の振り返りの活動においてその価値をとらえさせたりする場を設定することが必要だと考える。

その際、追究する内容が、既習内容と類似していれば、追究の見通しをもつ活動において用いる「追究の視点」や「思考の方法」を考えることに重点を置き、類似内容の学習経験がなければ、追究の振り返りの活動においてその価値をとらえさせることに重点を置くことが、子どもたちの実態に合った効果的な働きかけになると考える。

【追究の見通しをもつ活動における働きかけ例】

- 問いを解決するためには、社会的事象の何に着目して調べるかという「追究の視点」を話し合う。
- 本時で追究する内容と類似する内容を追究した既習学習で、どのように追究して解決したかを想起させる。

【追究の振り返りの活動における働きかけ例】

- 問いを解決できた理由について、「追究の視点」や「思考の方法」の点から話し合う。
- 今後、本時で追究した内容を他の地域を例にして調べる際には、どのように追究していくかを問う。

〔謝辞〕

本研究は平成29年度から平成30年度までの1年間をかけて行った研究である。その間、指導助言者である県総合教育センター教科教育研修課研究主事の中熊信仁先生、共同研究者で鹿兒島大学教育学系教授溝口和宏先生、鹿兒島大学教育学系講師福井駿先生には、様々な御指導、御助言をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

付記

本報告は、鹿兒島大学教育学部附属小学校平成30年度研究紀要で発表した研究内容等に基づき、その内容をさらに発展させ、成果をまとめたものである。

参考文献

- 小学校学習指導要領解説社会科編 (文部科学省 平成29年)
- 小原友行「思考力・判断力・表現力」をつける社会科授業デザイン (明治図書 平成21年)
- 澤井陽介「澤井陽介の社会科の授業デザイン」 (東洋館出版社 平成26年)
- 澤井陽介「見方・考え方 社会科編」 (東洋館出版社 平成29年)